

北海道岩見沢市

水稻 3 品種 栽培マニュアル

ゆめぴりか・ななつぼし・そらゆたか

気象・施肥・水管理・防除・中干し・収穫

対象地域 岩見沢市全域

基本栽培 中苗移植栽培（そらゆたかは直播栽培も併記）

2026 年 9 月

岩見沢市広域協議会

はじめに

本書は、岩見沢市における「ゆめぴりか」「ななつぼし」「そらゆたか」の安定生産を目的として、北海道の水稻栽培技術体系、品種特性、病虫害防除、水管理、J-クレジット方法論 AG-005 に加え、2024 年 4 月 1 日から 9 月 30 日までの岩見沢市民気象情報 10 地点の実測データを考慮した地域版栽培マニュアルである。

栽培管理は固定した暦日だけで決めず、生育ステージ、圃場状態、最寄り観測地点の気象、病虫害発生、土壌・水利条件を組み合わせで判断する。2024 年気象は地域特性を理解するための実績値であり、2026 年以降の栽培では当年の観測値と予報を優先した。

本書の構成

- 1 気象データと 2024 年の特徴
- 2 3 品種の特性と作期
- 3 年間栽培暦
- 4 土壌・施肥
- 5 育苗・移植
- 6 初期生育・分けつ
- 7 中干し・AG-005
- 8 幼穂形成～出穂
- 9 品種別管理
- 10 雑草・病虫害防除
- 11 登熟・収穫・乾燥調製
- 12 気象連動型判断
- 13 圃場記録
- 14 根拠資料・改訂ルール

1. 岩見沢市の気象情報と 2024 年実績

1-1. 使用したデータ

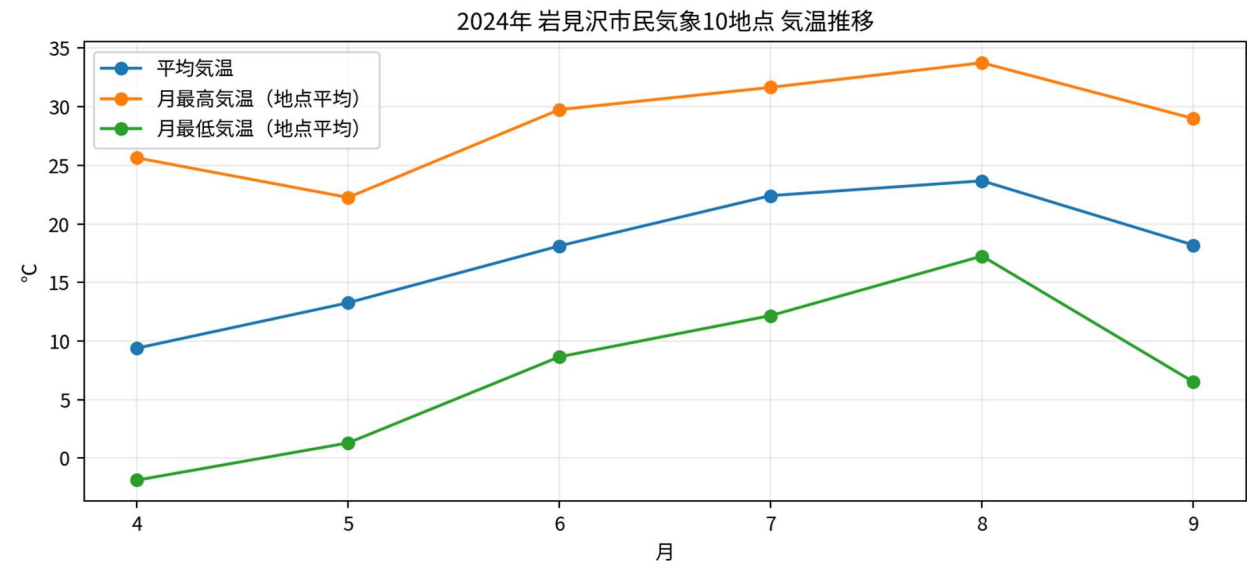
岩見沢市民気象情報の 2024 年 CSV から、4 月 1 日～9 月 30 日の降水量、平均気温、最高気温、最低気温、湿度、気圧、日射量を使用した。対象は 10 地点、183 日、合計 1,830 地点日である。

確認項目	結果
CSV ファイル	10 ファイル
解析地点	10 地点
解析期間	2024 年 4 月 1 日～9 月 30 日（183 日）
解析行数	1,830 地点日
主要 7 項目の欠測	0

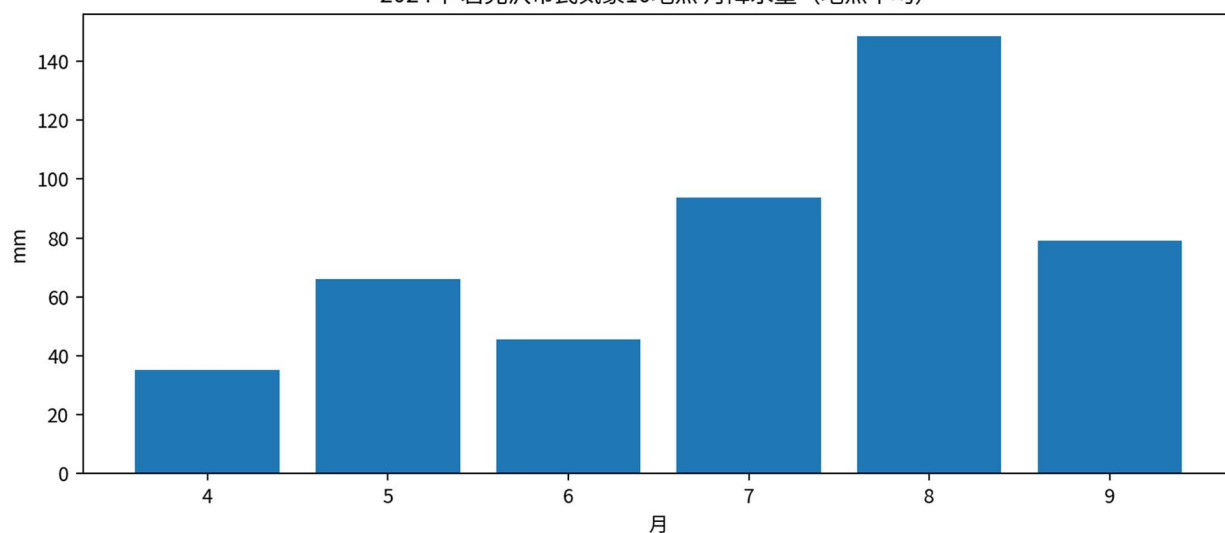
1-2. 2024 年 4～9 月の月別気象

月	平均気温℃	月最高気温℃※	月最低気温℃※	降水量 mm	湿度%	気圧 hPa	日射量積算※
4 月	9.4	25.6	-1.9	35.1	78.8	1009.8	488.2
5 月	13.3	22.2	1.3	66.2	75.3	1006.7	598.1
6 月	18.1	29.8	8.7	45.6	81.9	1004.3	593.3
7 月	22.4	31.6	12.2	93.8	83.0	1000.3	535.2
8 月	23.7	33.8	17.2	148.5	86.3	1003.2	524.2
9 月	18.2	29.0	6.5	79.0	80.6	1009.4	560.2

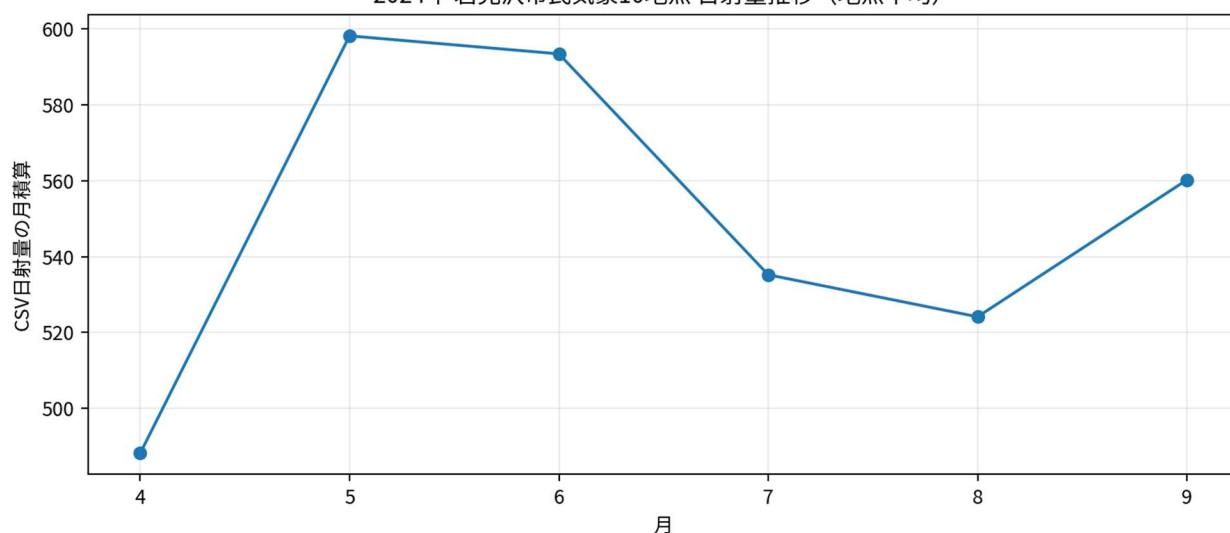
注記 ※最高・最低は各地点の月極値を 10 地点で平均した値。降水量・日射量は地点別月積算の 10 地点平均。圃場判断では最寄り地点の日別値を優先する。



2024年 岩見沢市民気象10地点 月降水量（地点平均）



2024年 岩見沢市民気象10地点 日射量推移（地点平均）



1-3. 地点別の 2024 年 4～9 月実績

地 点	平均℃	最高℃	最低℃	雨量 mm	湿度%	気圧 hPa	日射積算
上 幌	17.4	32.5	-2.4	537.6	81.3	1001.7	2586.3
上幌向	17.5	33.6	-1.3	448.6	80.5	1009.7	2928.3
上志文	17.2	32.9	-2.4	490.8	82.2	1000.5	3844.2
大 願	18.0	35.0	-0.9	507.0	79.3	1006.9	4842.6
幌 向	17.3	34.7	-1.2	406.8	81.0	1006.6	4865.8
東本町	17.9	33.1	-1.4	485.6	81.3	1006.7	2600.2
稔 町	17.9	35.1	-1.9	487.4	79.2	1006.6	3064.6
美流渡	17.1	32.9	-2.8	492.2	81.4	998.2	2690.9
豊 正	17.2	33.3	-2.4	447.8	81.2	1010.1	3067.9
赤 川	17.9	34.4	-2.1	377.2	82.5	1008.6	2501.1

市内でも降水量、最低気温、日射量には地点差がある。したがって、水管理や防除判断では岩見沢市全体の平均だけでなく、圃場に最も近い観測地点を選択して日別値を確認する。

1-4. 生育ステージ別の 2024 年気象参考値

分析区分	期間	平均気温℃	期間最低℃	雨量 mm※	湿度%	日射積算※
育苗・移植 準備	04/01～ 05/19	10.9	-2.8	74.8	76.2	895.4
移植・活着	05/20～ 06/05	13.3	4.3	29.5	80.2	296.8
分けつ	06/06～ 06/25	18.8	8.3	32.9	83.7	369.9
中干し/ 幼穂形成	06/26～ 07/15	20.7	8.0	22.7	80.3	390.2
出穂・開花	07/16～ 08/10	23.7	16.2	112.9	85.4	433.9
登熟	08/11～ 09/10	22.8	12.3	124.3	83.6	570.4
収穫期	09/11～ 09/30	16.7	5.1	71.0	81.3	342.7

注記 この期間区分は気象分析用の参考区分であり、各圃場の実際の移植日、幼穂形成期、出穂期を意味しない。※地点別期間積算の10地点平均。

2. 3 品種の位置付けと作期

項 目	ゆめぴりか	ななつぼし	そらゆたか
用 途	高品質・良食味の主食用	主食用・安定生産	飼料用・多収
出穂期（ななつぼし 比）	約 0.49 日早い	基準 0 日	中苗移植：約 2.06 日 早い
直播時	本書は移植中心	本書は移植中心	湛水直播は作期が大きく 後ろへ移る
栽培重点	適正粒数、低タンパク、品 質	初期生育、穂数、 倒伏回避	生育量、多収、 低コスト、収穫能力
水管理	品質と冷害回避	安定した生育	多収と根活力維持

品種別の作業日を固定するのではなく、ななつぼしを作期の基準として、そらゆたかは幼穂形成、防除、出穂確認をやや先行させる。ゆめぴりかは品質形成を優先し、窒素過多と粒数過多を避ける。

3. 年間栽培暦

時 期	生育・作業	気象確認	管理の重点
4 月上～中	種子予措・播種・育苗	低温、日射	健苗、徒長防止、育苗病害確認
4 月下～5 月上	育苗・耕起・施肥	地温、降雨	均平、土壌別施肥、水利確認
5 月中～下	代かき・移植・活着	最低気温、強風	苗保護、活着後浅水
6 月上～中	分けつ	平均気温、日射	必要茎数、葉色、根、還元確認
6 月下	生育診断・中干し準備	降雨、気温	茎数到達と田面状態で開始
7 月上～中	中干し・幼穂形成	降雨、最低気温	過乾燥回避、低温時深水
7 月下～8 月上	出穂・開花	気温、湿度、降雨	水不足回避、いもち、カメムシ
8 月	登熟	気温、日射、降雨	根活力維持、早期落水回避
9 月	成熟・収穫	積算気温、降雨	黄化、籾水分、作業可能日で判断

4. 土壌管理と施肥

北海道施肥ガイドの土壌区分・基準収量別施肥標準を基本とし、土壌診断、前年収量、品質、タンパク、倒伏、生育量、有機物施用歴で補正する。

基準収量 kg/10a	低地土 (乾) N	低地土 (湿) N	泥炭土 N	火山性土 N	台地土 N	P ₂ O ₅	K ₂ O
450	7.5	7.0	5.5	8.0	7.0	8.0	8.0
480	8.0	7.5	6.0	8.5	7.5	8.0	8.0
510	8.5	8.0	6.5	9.0	8.0	8.0	8.0
540	9.0	8.5	7.0	9.5	8.5	8.0	8.0
570	9.5	9.0	7.5	—	—	8.0	8.0

注記 単位 kg/10a。圃場へ一律適用せず、必ず土壌診断と地域条件で補正する。ゆめぴりかは特に窒素過多による高タンパク化を避ける。

5. 育苗・移植

種子・育苗

健全種子を用い、種子消毒、浸種、催芽、播種を適正に行う。芽を伸ばし過ぎず、出芽を揃える。育苗期間は温度、水分、日射を確認し、徒長、苗立枯、ばか苗等を早期に発見する。

代かき・均平

均平不良は除草剤、水管理、中干し、収穫作業性に影響する。田面高低差を抑え、移植後の水深を揃える。

移植・活着

移植直後は苗の保護を優先する。低温・強風時は水深を確保し、活着後は浅水を基本として初期分けつを促進する。

2024 年気象からの留意

5 月の気象は地点差があるため、最低気温と降雨を最寄り地点で確認する。低温時は暦日どおりに浅水へ移行せず、苗の状態を優先する。

6. 初期生育・分けつ期

観察項目	判断	対応
活着	新葉展開・発根が遅い	低温、深水、還元、植付深さを確認
茎数	必要茎数に達しない	浅水・水温確保。原因確認なしの追肥は避ける
葉色	過度に濃い	過剰窒素、地力、還元を疑い追肥を慎重化
土壌	土壌還元が強い・根傷み	水交換、還元対策を検討
雑草	ノビエ等が残る	葉齢と農薬登録条件を確認して適期対応

6 月は平均気温だけでなく日射量も初期生育に影響する。生育不足が見られる場合、気温、日射、水温、根の状態、土壌還元を順に確認し、単純に肥料不足と判断しない。

7. 中干しと J クレジット

通常の中干しは、過剰分けつの抑制、土壌還元の改善、根の健全化等を目的として生育に応じて実施する。J クレジット申請対象圃場では、当該水田の直近 2 か年以上の中干し実施日数の平均より 7 日間以上、連続して延長することを基本要件として管理する。

項目	通常管理	AG-005 対象
開始判断	茎数、土壌、水利、天候	通常判断＋過去 2 年以上の実績確認
期間	生育に必要な期間	基準より連続 7 日以上延長
降雨	田面状態を見て調整	降雨量と田面状態を記録
乾燥過多	差し水等で稲体保護	収量・稲体を優先。要件不成立の可能性を記録
記録	開始・終了	開始・終了、圃場 ID、写真、生産管理記録

2024 年気象データを参照する場合、中干し期間の降水量を最寄り観測地点で抽出し、単に『中干し日数』だけでなく、実際に田面が乾燥しやすい気象だったかを併記する。

注記 クレジット取得を優先して過度な乾燥を継続しない。減収や稲体への悪影響が懸念される場合は栽培上の安全を優先する。

8. 幼穂形成期から出穂期

幼穂形成期から冷害危険期は最低気温を重点監視する。低温が予想される場合は深水管理で幼穂を保護する。市民気象情報は地点ごとの最低気温差を把握するために利用し、圃場に近い観測地点を選択する。

出穂前後は水不足を避ける。高湿度・降雨が続く場合はいもち病等の発生環境を意識し、気象データだけで防除を決定せず、圃場巡回、発生予察、葉色、病斑の有無を組み合わせる。

9. 品種別管理

9-1. ゆめぴりか

管理項目	重点
品 質	高品質・良食味を優先し、適正な穂数・籾数を確保する
施 肥	窒素過多による高タンパク化を避ける
水管理	冷害危険期の低温回避と登熟を重視
防 除	いもち、斑点米カメムシを中心に発生予察と巡回
収 穫	出穂日、積算気温、黄化、籾水分、降雨予測を合わせて判断

9-2. ななつぼし

管理項目	重点
位置付け	3品種の作期比較の基準品種
初期生育	活着と初期分げつを安定させ必要穂数を確保
施 肥	土壌型と地力を基本に過剰窒素・過繁茂を回避
水管理	分げつ期の水温確保、冷害危険期の深水
収 穫	出穂日、積算気温、籾水分、降雨予測で判断

9-3. そらゆたか

管理項目	重点
用 途	飼料用・多収を主眼に低コストと作業効率も設計
作 期	中苗移植ではななつぼしより出穂が約 2.06 日早い
直 播	移植と作期が大きく異なるため移植暦をそのまま適用しない
耐 性	葉いもち・穂いもち・耐倒伏性の品種特性を踏まえつつ巡回は省略しない
収 穫	多収時はコンバイン、運搬、乾燥機の処理能力まで計画

10. 雑草・病虫害防除

農薬の商品名を本書で固定せず、発生確認、要防除判断、最新の農薬登録確認、適期防除の順で運用する。

時 期	対象	確認	対応
育 苗	ばか苗・苗立枯・細菌病等	徒長、枯死、変色	健全種子、種子消毒、育苗環境是正
移植～6月	ノビエ・初期害虫	葉齡、食害、発生量	登録条件と適期を確認
6月下～7月	葉いもち	病斑、葉色、高温条件	発生予察＋圃場巡回
7月	紋枯病等	株元・葉鞘病斑	上位進展、倒伏リスクで判断
出穂前後	穂いもち・カメムシ	穂、畦畔、すくい取り	発生量に応じ適期対応

湿度と降雨は病害発生環境の把握に有用だが、気象条件のみで薬剤散布を決めない。使用時点の農薬登録、北海道の病虫害・雑草防除ガイド、発生予察情報を確認する。

11. 登熟・収穫・乾燥調製

出穂日の把握

圃場単位で出穂日を記録し、積算気温、黄化、籾水分を組み合わせることで収穫適期を判断する。

登熟期の気象

平均気温、最低気温、日射量、降水量を確認し、早期落水による根の活力低下を避ける。

収穫

刈遅れによる胴割れ・品質低下、早刈りによる青未熟粒等を避ける。連続降雨予報と圃場の地耐力も考慮する。

乾燥調製

収穫後は速やかに乾燥するが、急激な乾燥・過乾燥を避ける。そらゆたかは多収を前提に乾燥施設能力を収穫順序へ反映する。

12. 気象連動型の判断ルール

気象条件	主なリスク	優先確認
移植後の低温・強風	活着遅延・葉傷み	水深、苗状態、最低気温
6月の低温・日射不足	分げつ不足	茎数、葉色、水温、日射
幼穂形成期の低温	不稔・冷害	最低気温、幼穂位置、深水
中干し期の少雨・高温	過乾燥・根傷み	田面亀裂、稲体、水位、降雨予測
中干し期の多雨	乾燥不足	排水、田面状態、連続降雨
出穂期の高温・降雨	病害リスク	いもち発生、湿度、降雨、葉色
登熟期の高温・少雨	品質低下・根活力低下	水管理、積算温度、籾水分
収穫期の連続降雨	刈遅れ・作業不能	降雨予測、地耐力、乾燥能力

13. 圃場記録票

記録項目	記入欄
圃場 ID／所在地	
最寄り気象観測地点	
品種／用途／栽培方式	
面積／土壌型	
播種日／移植日	
基肥・追肥	
除草・防除	
幼穂形成期	
中干し開始／終了	
AG-005 基準日数／実施日数	
中干し期間の降水量	
出穂期	
落水日／収穫日	
収量／品質／タンパク	
倒伏・病虫害・雑草所見	
気象上の特記事項	

14. 2024 年気象データの活用方法

2024 年の 10 地点実測値は、岩見沢市内の地域差を把握する基礎データとして保存する。毎年同じ形式で 4～9 月のデータを追加し、圃場別の生育・収量・品質記録と結び付けることで、地域別の栽培判断精度を高める。

活用テーマ	分析方法
移植・活着	移植日から 2 週間の最低気温、平均気温、降雨、日射を圃場別に確認
分けつ	6 月の平均気温・日射と茎数推移を比較
中干し	開始～終了日の降水量、平均気温、日射、田面状態を記録
冷害対策	幼穂形成～出穂前の最低気温と低温継続を確認
病害リスク	出穂前後の湿度・降雨と圃場病斑・発生予察を照合
登熟期間	出穂後の気温、日射、降雨と収量・品質を比較
収穫時期	出穂後積算気温、降雨、籾水分、収穫日を記録

15. 根拠資料と改訂ルール

- 一般社団法人北海道農産協会『北海道の米づくり 2023 年版』
- 水稻優良品種『ななつぼし』を基準とした出穂期の相対比較
- 北海道立総合研究機構 ゆめぴりか・ななつぼし・そらゆたか関連資料
- 北海道『北海道施肥ガイド 2020』
- 北海道農産協会 水稻病虫害、防除、水管理、適期収穫関係資料
- 岩見沢市民気象情報 2024 年日統計 CSV (4 月 1 日～9 月 30 日、10 地点)
- 農林水産省 J-クレジット方法論 AG-005 及び水田メタン排出削減対策資料
- 気象庁 岩見沢観測所の 2024 年気象データ (地域気象の外部照合用)

改訂時は、当年の病虫害・農薬登録、市内気象実績、品種別収量・品質、AG-005 最新版、圃場別生育記録を確認し、版番号と改訂日を付して更新する。

付録 A 農家向け確認表

- 健苗を確保し、移植前に最寄り観測地点の低温・強風予報を確認する。
- 移植後は苗を保護し、活着後は浅水で初期分けつを促す。
- 6 月は茎数・葉色・根・日射・気温を合わせて生育を判断する。
- 幼穂形成期は最低気温を確認し、低温時は深水管理を行う。
- 中干し開始・終了日を圃場別に記録する。
- AG-005 対象圃場は過去 2 年以上の基準日数と実施日数を確認する。
- 中干し期間の降水量を最寄り観測地点で記録する。
- 出穂前後は圃場巡回と発生予察でいもち・カメムシを確認する。
- 出穂日を圃場別に記録し、登熟期の気温・日射・降雨を確認する。
- 積算気温、黄化、籾水分、降雨予測を合わせて収穫日を決める。
- 収量・品質・タンパク・倒伏・病虫害を翌年の施肥・水管理へ反映する。